第3回生涯現役社会の実現にむけた就労のあり方に関する検討会 ～「居場所」と「出番」～

田中尚輝

NPO 法人市民福祉団体全国協議会

1. 高齢者の状態
 - 1) 高齢者の条件
 - ①能力がある
 - ②元気
 - ③自由時間がある
 - ④お金を持っている人が多い
 - 2) 高齢者の社会的な位置づけ
～やっかいもの（客体）ではなく、高齢者が社会問題を解決する（主体）
地域社会（少子高齢社会）のニーズ
 - ①支えあい（子育て支援を含む）
 - ②食事サービス
 - ③移動サービス
 - ④コミュニティカフェ
 - ⑤便利屋
2. 行政の高齢者施策の問題点
 - 1) 「敬老精神」による高齢者対策＝老人福祉法
 - 2) この延長としての「シルバー人材センター」や「生涯学習」
 - 3) 高齢者の「自発性」「創造性」を喚起する政策への転換が求められている
 - ①老人クラブ、シルバー人材センターはもう必要ないのではないか
 - ・シニアの自主サークルや組織の形成
 - ・地域での NPO 便利屋の形成
 - ②シニアに自主的な事業を開始・参加させる工夫をする（具体的な事例）
 - ・移動サービス：埼玉県狭山市でのホンダOBが移動サービス NPO を設立・稼動
 - ・長野県飯田市、木曾福島、長野市、諏訪で NPO 便利屋が立ち上がる
 - ・コミュニティカフェの形成（自宅開放型も）
 - ・「人生百葉」プロジェクトの開始（添付資料）参照
 - ・成年後見事業
 - ③マーケット（消費市場）としてのシニアと生産・サービス提供事業体＋労働力（ボランティアを含む）としてのシニアのマッチングがポイント
3. 何処で死ぬか？
 - 1) 人々の生活を考える
 - ①高齢者（ことに一人暮らし、高齢者夫婦）
 - ②子育て世代（0 1 2 世代、保育園世代、小中学校世代）
 - ③障がい者、移動制約者（10%程度）
 - ④青年・壮年の仕事
 - ⑤その他

2) 「地域」の問題

地域社会は機能しているか

①町内会は形骸化していないか

②公民館は機能しているか（鹿児島県鹿屋市柳谷 自治公民館 通称「やねだん」
豊重哲郎さん

③誰もが気楽にいける場（地域の茶の間、コミュニティカフェ）があるか

4. 問題解決の方法

1) 3つの原理

①補完性の原理

②自主的福祉の創造（岡村重夫、「法律的福祉」ではない）

③市民公益の実現（「官公益」ではない）

2) 課題解決にむけて

①地縁組織（町内会、公民館）の活性化

②課題別組織（ボランティア団体、NPO など）とサービス拠点（宅老所、託児所、
コミュニティカフェ）を発展させる

③上記、①②の連携

3) もう1つの市役所を地域につくる

「地域福祉民間センター」の設置と地域課題を解決する能力をもつコーディネイ
ターの配置